

安全保障と米軍基地（I）

日米安保条約を基準に、日本の安全保障を考えた場合、米軍基地は日本本土と沖縄の併用が有効ではないでしょうか。

沖縄の基地を50%縮小して、特に沖縄には最新鋭の戦闘機と空母寄港可能な基地によりその機能を拡大することが可能と考えます。例えば、最新鋭の戦闘機とは垂直離着陸可能な滑走路を必要としない戦闘機を海岸沿いに配備し、更に、米国空母の寄港可能な港を建設して、その空母を常駐させ、期間により交代させたることにより可能と考えます。更に、その空母の寄港可能な港を、大阪港など、日本全土で数か所の米軍空母港を建設すれば、今よりもより効果的な安全保障となると私は思います。何故ならば、アメリカの軍事力と言うよりは「技術力」を駆使すればアジアの安全保障を維持することは十二分に可能だと思います。

沖縄としては、空軍の演習は垂直離着陸戦闘機とすれば、海岸沿いの基地より離着陸するので、海上訓練を基本とすることが可能であり、更に、陸地上空は高度設定をして、何キロ以上の上空に限定することも可能です。

沖縄の騒音は殆どなくなり、上空での演習であれば危険回避の時間的余裕を確保でき安全面でも向上すると考えます。

更に、迎撃ミサイル、迎撃レーザーを配備すれば、沖縄を含め日本本土の安全保障に有効と考えます。

アメリカの軍事力とは核兵器1000発以上を保有し、原子力潜水艦、迎撃ミサイル、レーザー迎撃システム、そして空軍となれば、他の超大国以外の宣戦布告の非効率性を分析できない国家は皆無でしょう。

ただ、他の超大国との軍事的緊張を排除する平和外交が重要であり、つまり冷戦時代に逆行しないことが最重要課題です。(2010.6.1)